

平成三十二年 成人式



茶花校区



那間校区



与論校区



誓いの言葉



新成人代表者 元井 大治郎さん (西区出身)

と思います。しかし、私はそれ以上に誇れるところがあると思います。各種制度を有効に活用しながら自立していく必要があり、これからは、地方が国を変えていく次代であると思いません。

さて、私は、昨年の夏、人類のつぼといわれ、今、経済発展の著しいインドへ行きました。その中で、マザーテレサが設立した「カリガート」死を待つ人の家」という施設で、世界各地から集まってきたボランティアスタッフの一員として、数日間活動してきました。

そこでの活動は、ほとんど指示がありません。自分で周りを見て、今自分がやるべきことを考え行動しなければなりません。スタッフ一人ひとりが自主的に行動し、他のスタッフとコミュニケーションをとりながら行動することが求められます。常に考え、意識するという機会が非常に多く、その重要性を改めて感じることができました。

また、トイレにティッシュはなく、物乞いや窃盗が当たり前のように行われていました。様々な宗教が混在するなかで、様々な身分の人たちが生活しており、格差や差別を目の当たりにしました。日本とは全く違う環境の中で過ごすことで、世界の広さを実感するとともに、自分の小ささというものを痛感させられました。その中で、自分自身のなかに新たなものがきや葛藤も生じましたが、今自分のすべきこと、また、今自分がしなければならぬことを少し発見できたのではないかと思います。

私たちは、昭和から平成に元号が変わった歴史的な時に生を受けました。日本では、土地への投機熱でバブル景気が起こり、世界ではベルリンの壁が崩壊し、冷戦が終結した時期でありました。また、この二十年の間にはアメリカ・ニューヨークでの同時多発テロやイラク戦争、リーマンショックを発端とする、世界金融危機など、様々なことが起こりました。ハーバード大学教授サミュエル・ハンチントンが著書「文明の衝突」の中で、「ベルリンの壁崩壊後、世界はイデオロギーの対立から文明間の対立に変化している」と述べています。世界には、様々な問題が山積しており、わたしたちは、今まさに激動する世界を生きているといっても過言ではありません。現在、私は、大学で「地方自治の在り方」について学んでいます。昨年の夏には歴史的な政権交代がありました。地方主権が強調され、地方の在り方が問われる時代になっています。

私たちの与論町も、離島であるが故に、さまざまな面でハンディはある

す。また、インドへ行って日本という国を外から見る事ができたのも日本について考える良いきっかけになりました。大学進学のために上京し、外から与論を見つめたときと同じものを感じました。重要なのは、そこから自分たちがどう行動を起こすかということだと思います。場所はどこであつても自分次第でいろんな形でアクションを起こすことができると思います。皆さんは、どのような思いで今日の日を迎えたのでしょうか。これまでの自分を振り返り、反省したり、これからの目標を立てるなど、それぞれ思うことがあるかと思えます。今日集まった仲間の中には、すでに与論に戻り与論の発展のために頑張っている仲間がいます。世界に羽ばたきアメリカで頑張っている仲間がいます。そして全国各地で一生懸命頑張っている仲間がいます。私たちは、今日の喜びを胸に刻み、一人ひとりが置かれた状況の中で、「Think globally, act locally」視野をグローバルに持ち、自分の足元をしっかり見つめ、自分のできることから、社会、また、愛する与論のため貢献できる人材となれるよう日々精進していくことを誓い、新成人を代表し、誓いの言葉とします。

